2014（平成26）年
3月1日
第154号
毎月発行
毎月第４月曜日は休館日です

西東京市 公民館だより

編　集
公民館だより編集室
発　行
西東京市公民館

柳沢公民館　柳沢1-15-1　☎042・464・8211　kouminkan@city.nishitokyo.lg.jp
田無公民館　南町5-6-11　☎042・461・1170　tana-kou@city.nishitokyo.lg.jp
芝久保公民館　芝久保町5-4-48　☎042・461・9825　shiba-kou@city.nishitokyo.lg.jp
谷戸公民館　谷戸町1-17-2　☎042・421・3855　yato-kou@city.nishitokyo.lg.jp
ひばりが丘公民館　ひばりが丘2-3-4　☎042・424・3011　hibari-kou@city.nishitokyo.lg.jp
保谷駅前公民館　東町3-14-30　☎042・421・1125　ekimae-kou@city.nishitokyo.lg.jp

また会いましょう！
～復興支援交流記～

1月25日㈯・26日㈰、公民館に関わっている市民、公民館職員有志が、福島県新地町の「しんちまち生涯学習フェスティバル」に参加してきました。

新地町は、東日本大震災で約8千人の人口のうち100人以上を亡くす被害を受けました。町の面積の5分の1にあたる904ヘクタールが浸水、500戸以上が全半壊し常磐線新地駅も全壊しました。

平成23年11月に開催した芝久保公民館まつりでは、大震災の発生を受け、実行委員会が従来のテーマ「出会い、ふれあい、ひろがる絆」に「今できること」を加え、支援バザーを行い、翌年新地町を訪れました。平成25年からは田無公民館まつり実行委員会も支援に新たに加わっています。さらに今年は2つの市民サークルが交流に加わりました。

フェスティバルに市民が参加

フェスティバルは西東京市の公民館まつり同様、町民の活動の発表の場です。ステージ発表や作品・写真展が盛大に行われていました。仮設住宅で暮らしながら作ったパッチワークや押し花絵等の文化活動が、どんな環境でも生活の彩りになることを教えてくれました。

25日は「絆音楽交流会」と銘うったステージに西東京市から参加した「ウインズ パストラーレ楽団」29人と「西東京かっぽれ道場」8人が出演しました。

まず、西東京かっぽれ道場のみなさんが客席後方から入場。「365歩のマーチ」にのせて華やかに踊りながら登場し、会場がパーッと明るくなりました。

絆音楽交流会の様子

後半、ウインズ パストラーレ楽団の「北国の春」他の演奏が進むにつれ、会場は聴衆の歌声に包まれました。

演奏終了後、西東京市民から提供された賞品で抽選会を行いました。クリスマスローズ、かりんとう、市のキャラクター「いこいーな」グッズ等です。会場を後にする方たちの多くが「素晴らしかったです」「また来てください」と話す姿が印象的でした。

被災時の話を聞く

翌26日は「語り部」の村上美保子さんのお話を聞きました。村上さんは100年続く旅館「朝日館」の女将さんでした。

避難の途中、コンビニに立ち寄ると店内は無人で商品はフロアに散乱していました。おにぎりをあるだけ拾い、一つあたり200円の代金を置いてきました。もし今日、旅館にお客さんが来たら、このおにぎりを食べてもらい宿泊代はなしで泊まってもらおう、と考えたのです。

海岸を見ると、真っ黒な巨大な壁となった津波がすごい速さで迫って来るのが見えました。

村上さんの家も旅館も流されてしまい、満員すし詰めの健康センターの2階に避難しました。

車におにぎりがあることを思い出し持ってきて全員に配ったところ、おにぎりの数と避難者の数がぴったり同じで偶然とは思えず、「何かに生かされている」と感じたと言います。

また会う日まで

会場でウインズ パストラーレ楽団のメンバーが「カードづくりとスタンプアート」のブースを開き、子どもたちにオリジナルカードをプレゼントしました。この子どもたちが明日の新地町の未来を創ることを願いながら一行は西東京市への帰路につきました。

村上美保子さんの話を熱心に聴く西東京市の参加者

わが街をもっと知りたくて
言葉の「和・輪」があふれる街に

青年俳優座・山﨑巌（いわを）さん

新町にある青年俳優座をご存じですか？ここは稽古場兼舞台装置作りのためのアトリエで、オーナーの山﨑巌さんは、多摩地区を中心に12か所で演劇や朗読、語りの講師を務めています。

「多摩地区は、緑が多く文化活動も盛んで、人のつながりを持ちやすい地域だと思うんです」

山﨑さんが求める朗読のスタイルは読みより語り。熱っぽいひとり語りで、その作品の持つ心情と自身の思いを表現します。「舞台では何が起こるか分からないので、一言一言を細胞に落とし込むまで稽古をします」

そんな山﨑さんが現在取り組んでいる活動の一つに、群読があります。群読は「音符のない合唱」といわれ、一つの作品を大勢で語ります。昨年は西東京市文化芸術振興会による「こころと頭をリフレッシュする群読講座」を保谷こもれびホールリハーサル室で行いました。山﨑さんは初対面でも声が出しやすい雰囲気づくりを心がけます。一同が輪になって「私は○○です」と自己紹介をした後に、みんなで、「あなたは○○さんですね」と繰り返し、声と心を合わせます。「伝え奏でる喜びを共有することによって、達成感と連帯感が生まれます」

「西東京市近辺には、大小さまざまな演劇団体があるので、地域合同で迫力のあるイベントをしたい」と語る山﨑さん。夢の実現に向けて青年俳優座のアトリエは出番を待っています。

取材日　平成25年12月26日㈭

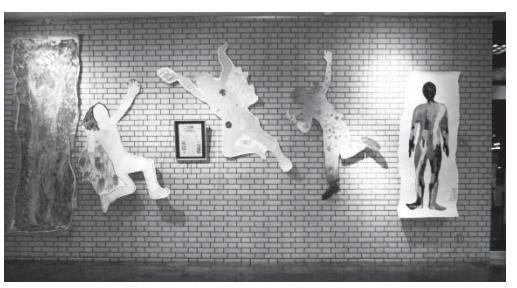
出演情報
○「原爆の記」（3面参照）
○「西東京市平和の日」のイベント
4月13日㈰13時～／田無駅北口アスタビル2階センターコート

◆NPO日本朗読文化協会「第6回朗読コンクール」優勝&観客特別賞受賞ほか受賞歴多数。朗読検定2級。

担当者からの講座報告

保育付女性講座（10月2日～1月29日 全13回 柳沢公民館）

心とからだに深呼吸！
～☆アートでリフレッシュ☆～



言葉で言えない思いを、等身大の自分を描くことで表現していく講座。

1月の展示に向けて二人一組で自分の人型をとり、彩色をしました。参加者に好評だったのが、描く前の体ほぐしや楽しい事、辛かった事を皆の前で話し共有するシェアの時間。人型は皆の思いが弾けた作品になり、公民館のロビーが、現代アート美術館に変身しました。

回を重ねる度に、参加者の顔つきが、どんどん明るくなっていく事に驚きと嬉しさを感じた講座でした。